

編集後記

本号は令和元年の最初を飾るにふさわしい充実した内容がぎっしり詰まっており大変読み応えがあった。高度な内容の脳卒中の遺伝子レベルの研究、癌の画像—遺伝子相関診断の進歩は今後の進歩を予想させるものである。3歳児の肥満防止のための睡眠テクニックという目からウロコの話、島根特産品として注目されているエゴマが、月経困難症に有効という実用的な話題、そして最近地域医療支援学講座教授に就任した佐野千晶先生の初期研修医の研修満足状況と関連因子解析は今後の県内医師定着のための示唆を与えるものである。国際生活機能分類は初めて知ったが、生活機能とは、障害の持つ持たざるに関わらず、すべての人を対象とした生活機能、生きることの全体を現すものであることを知り、環境要因における阻害因子の軽減が重要であることを納得した。また、難聴児の現状と課題では早期診断、他の発達障害合併の診断が重要であり、中には自閉症に見えた子供が、実は難聴によるもので、人工内耳植え込みで正常化することもあるという指摘は印象的であった。出雲市立第一中学校地域が一体となった健康活動10年間は素晴らしい活動であり、朝から元気な子の比率が6割に維持されていること、就寝時間が早いと朝の気分不良が少ないことなどを示している。上津地区では筆者の嘉村先生が小学生エコクラブの上津探検隊を指導して全国エコ活コンクールで特別賞を受賞していることも付記しておきたい。

(S.K)

島根医学編集委員

児玉和夫，貴谷 光，浅野博雄，大居慎治，沖田旺治，
齊藤洋司，佐藤比登美，小林祥泰，井川幹夫，中島健二，
小阪真二

島根医学

平成30年12月31日発行

発行者 島根県医師会
出雲市湖陵町
編集 編集者 児玉和夫
発行所 松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松陽印刷所